

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300016		
法人名	有限会社 FKKサービス		
事業所名	グループホームうれし家		
所在地	岐阜県養老郡養老町鷺巣1125-17		
自己評価作成日	平成22年2月2日	評価結果市町村受理日	平成22年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2192300016&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは職員を含めて「自分や自分の家族を利用させたい」と思う気持ちを大切に、日々業務にあたっています。家ではおおむね一人で介護されていて、なかなか外出をさせてあげられなかった、という家族様の気持ちを汲み、天気の良い日にはほとんど外出しています。また、家族様も参加可能な外食デーも設けています。地域密着型という特性も活かし、地域活動や、展覧会などにもすすんで参加するよう心がけています。身体的な介護はもちろん必要ですが、精神的なケアに重きを置いています。今までの生活スタイルも大切に、新しいつながりを作って頂けるような援助をしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年目を迎えるこのホームは、管理者の思いに沿った職員が、日々生きがいを持ってケアにあたっている。医療行為を伴わない利用者には、その人の人生歴や尊厳を守りながら限りある時間をホームで過ごしてもらおう方針で支援を行っている。管理者と職員の地道な努力によって徐々に地元に根付き、自治会長や住民・行政の理解も得られ、運営推進会議では様々な意見も交わされ、ホームの運営に活かしている。地域の介護や高齢者に関わる相談窓口としての役割を担っていくという前向きな考えも持っており、地域にとって貴重な存在の社会資源として活躍が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一度の職員会議や、ケース会議を行い、決められたケアではなく柔軟に対応できるよう意見を交わしている。	「ホームが地域に根付きより良い福祉の実現を」、という言葉が理念を説明する文書の中にうたわれ、日々の細かいケアの中でも職員同士が互いに確認し合い、ミーティングでも話し合っており、理念を共有し、ケアに活かせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や外食、地域の清掃活動や展覧会の参加など、少しずつだが確実に定着してきている。	近隣の公園の草取りや掃除等の自治会活動に利用者と共に参加し、地域の一員としての位置を確保しつつある。住民が野菜や季節の果物を差し入れてくれることもあり、地域交流が徐々に広がっている。	さらに、「認知症を始め高齢者に関わる問題の住民の相談相手となっていきたい」という管理者の思いが実現されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、在宅で介護をされる方の状況や相談が区長様などから挙がり、相談窓口にしてもらえるよう、お願いしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度よりも理解が深まっていると確信しており、地域の催し物にも参加の声がかかるようになってきた。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、自治会長や民生委員、行政、家族代表の参加によって、ホーム内だけでなく、場所を変えて近隣の飲食店でも開催している。地元の行事など幅広い情報や質問・意見が積極的に交わされ、ホームの質向上へと反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	前年度はあまり提携できていなかった地域包括センターとも積極的に連絡を取り、ホームの活動も報告するようになっている。	市の担当者が運営推進会議に出席していることもあり、管理者も事あるごとに役所に出向き、ホームの状況などの相談を行っている。また、その情報は、ホームの運営に活かすべく、ホーム内で随時の話し合いが行われ、具体的な取り組みにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中職員が見守り強化できる時間帯は施錠は行っていないが、夜間は一人体制になるので、玄関の施錠を行うことを家族に説明、了解を頂いた上で行っている。	身体拘束の内部研修がきめ細かく行われ、全職員は拘束の意味を周知し、玄関は日中は開放し夜間のみ施錠をしている。外出の気配がする利用者には、無理に戻すことはせず、一緒に庭を散歩して帰るような支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議でさまざまな研修を行うなかで、虐待についても取り上げている。日々の注意としては、全スタッフが入浴を担当するようにし、身体チェックを欠かさずするようにしている。	/	/

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際には成年後見制度を利用したことがなくなかなか制度が難しいが、身近な例を出しながら研修するよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には思いつかなかった疑問などにも、後日説明や理解を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で行っている。	苦情箱・意見箱の設置はしていないが、家族の訪問時に声をかけ、積極的に意見・希望の聴取に努めている。管理者は利用者の声も機会ある毎に聴く姿勢で接している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議とは別に、個別に話をする機会を設けるとともに、管理者も出来るだけ現場に入り意見を交わせるように努めている。	管理者は職員からの「利用者に対する思いと支援について」の意見に理解を深めると同時に、職員と日々のケアの細かい部分の意見交換も行い、職員の思いを酌んだ運営に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は様々な家庭事情を持っているので、希望休を多く取ってもらう様にするなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な資格を持った職員がいるので、働きながら教え、教われ日々業務にあたっている。外部研修も希望者は出席している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	養老町にはまだ2つしかグループホームがないので、蜜にさせていただいている。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは自分の居場所を作ってもらえるよう、スタッフが間に入り入居者同士の輪を広げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに家族と話し合いを重ね、どのようにケアしていくのかを相談する。入所後は本人の様子をマメに連絡し安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	『木を見て森を見ず』にならないよう、長期目標も大切にしている。そこへ向かって出来ること、出来そうなこと、出来ないことを家族と話し合い、ケアにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あくまで援助であると考え、一緒に暮らしていくには・・・という考えを根底に、共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも定期的に近況報告したり、行事に参加してもらいながら、関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前によく行かれていた喫茶店や、スーパーなどに買物に行くようにしている。また家族には住まれていた地域の催し物があれば教えてもらうよう声をかけている。	利用者は殆どが地域で住んできた人であり、知人や友人がホームを訪れ、昔馴染みの付き合いを継続している。また、商店や美容院など、行きつけの店に職員が同行し、馴染みの関係が続けられるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り共通の趣味や過去を話題に出し、つながりが持てるよう支援している。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や季節の挨拶で近況報告を尋ね、フォローできることがあれば相談してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「家に帰りたいけど、帰れん」と言われる方が数名おり、対応に悩む時もあるが、自分がここにいなくなるとみんな困るかな・・とってもらえるよう、つながりを深くする努力をしている。	利用者一人ひとりに気づきファイルを作成し、日々の何気ないつぶやきや言葉を大切に記録し、家族からの聞き取りや思い出話から利用者の思いを汲み取るように心配りをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まずは家族からの聞き取りだが、入所後早くなじんでもらえるように、スタッフが間に入るなかで自己紹介を兼ねて生活歴を話されるケースが多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化のあるケアプランをたてる為にも、日々現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	理想は本人、家族、必要な関係者が揃って話し合いを出来ればいいのだがなかなか難しいので、ホームが橋渡しを兼ねて意見交換をし、介護計画につなげている。	介護計画は、職員会議やケア会議、利用者の思いや家族の希望を組み入れ、3ヶ月毎に課題についての評価を作成している。利用者によっては、緊急時のみならず、介助方法が変わった際も1・2ヶ月で柔軟に見直した上で、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議で個別ケアについて情報交換している。毎月少しずつ介護計画の見直しがあり、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今まで通われていた病院やリハビリを続けてもらえるよう家族の協力の下通院されているケースもある。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員はできていないが、地域の展覧会や運動会に参加できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族にかかりたい科目と病院を教え、いただき、家族の協力も得て受診できるようにしている。	入居時に説明を行い、家族の同意を受けた上で、利用者の殆どがホームの協力医を主治医としており、月2回の往診を受けている。受診内容は、家族に電話や個別便りに記載し、家族が常に利用者の体調を把握できるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護支援専門員が看護師も兼務しているので、適切な受診、看護を提供できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院をしてもらえるよう日頃から話をしている。退院前のリハビリ訓練や、入院時は状況を把握してもらうようお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期ケアについて説明し、同意書をもらうようにしている。併せて特別養護老人施設などへの申し込みもお願いしている。	利用者の重度化と終末期については、避けて通れない課題と認識しているが、医療行為が発生した利用者は他施設に移行となる方針を入居時に説明し、必要時には主治医との連携の上で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員 定期的に救急救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行うと共に、区長を通して地域の方に避難介助を支援してもらえるように話し合いをしている	自主的な避難訓練は年2回実施し、職員が利用者と外へ出る誘導を重ねている。次回の消防署との訓練は、管理者のこれまでの努力の積み重ねで、住民も巻き込んだ訓練の実現を計画している。飲料水・薬・食料品など必要な物を備蓄し、災害に備えている。	さらに、災害時の指定避難場所や避難方法などを家族に事前に知らせ、離れて暮らす家族の安心を得るよう、ホーム全体で話し合い、安全に繋がる取り組みを期待したい。

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴をもとに、NGワードなどを把握するようにしている。	その人その人の人生歴を、本人・家族から聞き取り、尊厳と生き方を守るような配慮を行っている。個人情報取り扱いの同意書を家族に署名してもらったり、写真や掲示物等にも家族の了解を受けるなど、相互の信頼関係に配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を出してもらうための働きかけとして意識はしていないが、何でも言える環境づくりに努めているので、比較的希望ははつきり言われる方が多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お天気の良い日は外に出る ということをつかかっておられる入居者が多いので、希望を聞き喫茶店に行くなど、柔軟に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着る服は自分で選んでもらえるよう援助し、入浴の準備も職員と一緒に話しながら用意している。整容は2ヶ月に一度訪問散髪を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方は材料を切ったり、味をつけたりしてもらっている。毎日の食事以外で恵方巻きを作ったり、焼そばをしたり、ケーキをデコレーションしたりして参加してもらっている。	食材の下準備や盛り付け、配膳など、利用者ができることを手伝ってもらい、職員も同じテーブルにつき見守りながら同じ食事をとっている。調理が得意な職員を配置し、利用者の好みや嗜好を考慮した献立となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた食事を摂っている。水分を摂ってもらえない方は、おやつにゼリーを出したり、水分含有量の多い食品を食べてもらうなど、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2週間に一度の訪問歯科をはじめ、先生の指導を受け、日々の口腔ケアをしている。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。今の入居者様の排泄パターンも把握できてきたので、日中の失禁は軽減傾向にある。	個別に排泄パターンを記載し、その人その人の時間によって、さりげない声かけをしている。職員の細かい気配りにより、排泄が自力でできるようになった人が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り薬剤に頼らないよう、水分補給やヨーグルト、お家で飲まれていたセンナ茶などを接種していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を聞くようにしているが、なかなか全ての希望に答えられていないのが現状である。	基本は週3回であるが、毎日入浴したい人の希望にも添えるよう、職員の配置を考慮している。入浴がホームでの1日のくつろぎの時間となるよう、各種の入浴剤を利用し、香りも楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特別な時間配分はしていないので、基本は本人の意思に任せて援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2週間に一度内科往診があるので、薬剤の変更相談などがあれば、全職員が前日までに看護師に報告、意見するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別対応を重視しているので、喫茶店やドライブ、ショッピングなど希望に併せてスタッフを配置するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば家族の協力を得て、一時帰宅や外食をお願いしている。遠出希望の場合は遠足などの行事として行えるように計画を立てるようにしている。	利用者の外出機会はかなり多く、天候のよい日の散歩や個別の希望による買い物、喫茶店や外食など、いくつかのグループに分けて行っている。散歩は利用者の気が向いた時に、利用者の行きたい所へ歩き、自由さを満喫できる支援をしている。	

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、紛失の危険などもあるので、小額にはしていただいているが、生活用品や嗜好品が買える程度のお金は管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶や年賀状のやり取りをはじめ、日常の電話もいつでもかけてもらっている。(家族の了解を得られた場合)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩の際に花を摘んでもらって飾ってもらったり、作品を飾ったりして季節感を取り入れている。トイレや洗面なども分かりやすいように表示するなどしている。	広いリビングには、食事用のテーブルや食事後にゆったり過ごせるような柔らかい色のソファが置かれている。壁には季節の手作りの額が飾られ、ゆっくりと落ち着いた時間の流れの中で、利用者が自由に過ごせるような配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファには食後のあとに気の合う方が集まり談話されている。見たい番組がフロアのテレビでかかっていない時は自室に戻られてゆっくり見られていることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族、スタッフと居室作りをしている。家族には家族写真や思い出の賞状などを持ってきてもらっている。	本人の気にいった家具や調度品を持ち込み、その人の好みによって、ベッドだけでなく、布団でも対応できる支援をしている。居室には家族の写真や手芸品が飾られ、訪問時には家族も居室で、水いらずの時を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を活かした自席の配置を心がけている。		